

# 平成28年度第4回 教育委員会会議 会議録

- 1 日 時 平成28年6月7日（火） 13：13～14：53
- 2 場 所 3号館8階教育委員会室
- 3 出席者 <教育委員会>  
雪村教育長 森本委員 梶木委員 伊東委員 大塚委員 福田委員  
<事務局>  
林教育次長 岡田スポーツ担当局長 稜野総務部長  
川田指導部長 日下社会教育部長 後藤教育施策推進担当部長
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 1名
- 6 会議内容

（雪村教育長）

それでは、ただいまより、教育委員会会議を始めます。

本日は、議案1件及び報告事項7件です。このうち報告事項3については、教育委員会会議規則第10条第1項第2号により職員の人事に関する事。教第12号議案については、教育委員会会議規則第10条第1項第3号により、長の作成する議会の議案に関する事。報告事項1及び報告事項2については、教育委員会会議規則第10条第1項第5号により、訴訟または不服申し立てに関する事。報告事項4及び報告事項5については、教育委員会会議規則第10条第1項第6号により、会議を公開することにより教育行政の公正かつ適正な運営に著しい支障が生じるおそれのある事項であって、非公開とすることが適当であると認められるものとして、非公開としたいと思いますが御賛同いただけますでしょうか。

（6名の賛成により、非公開案件を決定）

（雪村教育長）

それでは、報告事項6、特別展入館者数の報告について、博物館よりお願いします。

## **報告事項6** 特別展入館者数の報告について

（小野田博物館学芸課長）

先日、閉会した特別展「我が名は鶴亭一若冲、大雅も憧れた花鳥画（かっちょいいが）!？」について報告します。

本展は、平成28年4月9日土曜日から5月29日日曜日まで44日間の会期で実施し、4万464人の方に来館いただきました。当初想定していた入館者数は、2万7,100人でしたので、

想定より1万3,364人多い入館者数となりました。1日の入館者数が最も多かったのは、最終日の5月29日日曜日で1,661人。1日あたりの平均入館者数は919人。有料入館者数は1万9,997人で、有料率は49.4%でした。ちなみに、2月6日から3月27日まで開催された、長崎会場の入館者は会期50日で8,090人でしたので、本展2会場の総入館者数は4万8,554人となります。

いつもアンケートをとっていますが、回答としては、照度制限のある日本画の展覧会のため、会場を暗くしてしまっていたので「会場が暗い」という指摘もありましたが、これまで余り知られていなかった鶴亭という画家を紹介する初めての展覧会であり、好評をいただきました。また、賛否ありますが、ポスターや「若冲や大雅も憧れた花鳥画（かっちよいが）」というキャッチコピーに魅力を感じて来館された方も少なくなかったようです。

あわせて、6月以降開催予定の展覧会についても報告します。

まず、6月18日土曜日から8月28日日曜日まで62日間の会期で、特別展「ボストン美術館所蔵－俺たちの国芳わたしの国貞」を、9月17日土曜日より11月27日日曜日まで62日間の会期で、特別展「神戸開港150年プレイベント 松方コレクション展－松方幸次郎 夢の軌跡－」を、12月23日金曜日祝日から翌平成29年4月2日日曜日までの82日間の会期で、特別展「古代ギリシャー時空を超えた旅－」を、それぞれ開催いたします。お手元にお配りしていますのは、ボストン美術館展のチラシと松方コレクション展のプレチラシです。

なお、6月17日金曜日午後から、特別展「ボストン美術館所蔵 俺たちの国芳わたしの国貞」の記者内覧会と開会式を予定しています。お時間のある方、御参加をお願いします。

(雪村教育長)

特別展の入館者数報告で、質問等ありませんか。

(梶木委員)

入館制限するようなことにはならなかったですか。

(小野田博物館学芸課長)

朝10時から開館でしたので、多いときには並んでいただいているお客様が80人くらいおられた日もありました。1日最大1,600人くらいでしたが、博物館としては2,000人を超えないと入場制限する必要はないという運営をしています。

(梶木委員)

東京の会場ではすごく混んでいたという話をニュースかどこかで聞きました。

(小野田博物館学芸課長)

若冲の展覧会について、40万人を超えたと聞いています。東京都美術館からの話で聞い

たのですが、会期が非常に限られた期間でもあり、重要文化財も入っていますので、多いときには2万人を超えたといった来客であったようです。

(雪村教育長)

次の特別展の「俺たちの国芳わたしの国貞」展は東京で先にやっていますよね。

1日平均どれぐらいの来場者だったのですか。

(小野田博物館学芸課長)

先週の日曜日、6月4日に終わって、確定の人数が21万5,230人と出ています。開会式も含めて79日間の会期であり、1日平均で2,702人。最大入館者数が6,167人で、先ほど指摘がありましたけれども、会場に入るとどうしても小さい場所に人が滞留してしまいますので、これだけの人がお越しになれば入場制限も考えながら運営することになります。東京の会場であるBunkamuraザ・ミュージアムは9時まで開いています。他館について申し上げるのは申しわけないですが、非常に狭いところですので、当館で開催する際には2倍ぐらいの展示面積があり、そのあたりの対応としても若干混雑を緩和できるのではないかと考えています。

(雪村教育長)

神戸市立博物館よりも狭いにもかかわらず、1日平均2,700人ですか。神戸市立博物館が入館者が2,000人を超えたら入場制限するという事は、ほぼ毎日、入場制限するような状況だったのでしょうか。

(小野田博物館学芸課長)

会期はゴールデンウィークを挟んでいますが、連休中も4,126人や3,500人といった入館者が入っています。展覧会はあとのほうになると人出がふえますので、最終週については、土曜日が先ほど申し上げた最大の6,167人ですが、雨だった日曜日も、5,284人という入場者数になっていますので、開催する際には事故を起こさないように努めたいと思います。

(大塚委員)

やはり東京は多いですね。

(寺田博物館副館長兼事務局長)

やはり多いですね。

(小野田博物館学芸課長)

人口のバックグラウンドが違いますね。

(大塚委員)

(神戸も) 長崎と比べると多いですけども。

(小野田博物館学芸課長)

長崎の展示会場でも8,000人というのはよく入ったほうだと言われています。鶴亭自身  
が生まれたのは長崎ですので、「長崎の人物を検証してもらってありがとうございました」と、  
向こうの館長からもお手紙をいただいています。

(雪村教育長)

そのほか、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

ありがとうございます。

それでは、続いて報告事項7、補助執行による教職員の多忙化についてのアンケート実  
施について、お願いします。

## **報告事項7** 補助執行による「教職員の多忙化」についてのアンケート実施 について

(豊永総務課長)

神戸市教育大綱に定めています「多忙化の現状把握」について、本題アンケートを実施  
しています。

対象者は学校園と事務局に勤務する教職員で、実施方法は無記名、自由記述形式。受付  
はイントラ、ファクシミリ、郵送、Eメール、電話、持参となっています。電話について  
は、外部のコールセンターで行っています。受付期間は6月1日から始まっており、8月  
31日まで。電話対応の時間帯は午後5時から午後8時までで、月曜日から土曜日まで受付  
します。

アンケートを資料におつけしています。きょう現在で200件近くの意見をいただいでい  
る状況です。

(雪村教育長)

この件について、いかがでしょうか。

(森本委員)

対象となる方は8,000人くらいですか。

(豊永総務課長)

8,000人くらいですね。

(森本委員)

年代は20代、30代、40代、50代、60代とありますけれども、どの世代が一番多いですか。

(植田総務課指導主事)

回答は50代ぐらいの方と30代ぐらいの方が多いと思われま。

(森本委員)

男女比はどうですか。女性の先生のほうが多いですね。

(植田総務課指導主事)

バランスよく来ているような感じ。どちらかというとな性のほうが多いような感じはあります。

(豊永総務課長)

現状の対象となる8,000人の内訳ということでしょうか。

(椋野総務部長)

男性3,800人と女性4,500人くらいです。女性のほうが少し多いです。

小学校には女性が多くて、中学校には男性が多い。合計で1対1.2くらいという感じ。す。

(森本委員)

アンケートには、「必ず答えなさい」ではないですか。

(豊永総務課長)

任意回答です。

(森本委員)

集計したら、どの年齢層が少なかったかわかりますね。

もう200件くらい来ていますか。

(豊永総務課長)

はい。比較的イントラネット経由の意見が多いです。

(雪村教育長)

PR等が行き届いているか少し心配でしたけれども、出だしは好調ですね。

(森本委員)

4択、3択方式ではなく、自由意見ですね。

(梶木委員)

事務局の人は書けないんですか。

(豊永総務課長)

回答できます。

(大塚委員)

「こんなことするから、また忙しくなった」と言われるかもしれない。

(梶木委員)

事務局にいるからこそ見えてくる学校のことであるとか、事務局の先生方でいろいろな意見があればいいなと思いました。「事務局も忙しい」というのもそうかもしれないです。「アイデアも欲しい」と書いてあるので、いろいろなアイデアが出るといいなと思います。

(豊永総務課長)

そうですね。

(雪村教育長)

期間は3カ月間ですから、集計したあと、また委員会会議で報告します。

この件については、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

ありがとうございます。それでは、引き続き、主要行事予定について、総務課より説明してください。

## **その他報告事項** 主要行事予定

(豊永総務課長)

前回の委員会会議の開催日、5月24日以降の主要行事ですが、31日に指定都市教育委員・教育長協議会を神戸で開催しました。御出席ありがとうございました。昨日は兵庫中学校北分校の視察に行っていました。それから、今後の行事予定ですが、6月10日、11日に小学校運動会、高等学校の体育大会。17日はボストン美術館展の開会式となっています。それから、6月21日に委員会会議定例会を13時15分から予定しています。よろしくお願いいたします。

(雪村教育長)

特段、補足などございませんか。

その他教育委員の皆さんから委員会会議で取り上げるべき項目について、意見はありませんか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

何かございましたら、また後日でも結構ですので、事務局までお伝えいただきたいと思っています。

それでは、非公開案件に入ります。

傍聴者の方は、退席をお願いいたします。

(雪村教育長)

それでは、報告事項4 組体操について、スポーツ体育課より説明をお願いします。

## **報告事項4** 組体操について

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

春の運動会の組体操の状況について報告します。

小学校は、163校中59校が春に運動会を実施しました。そのうち、57校が組体操を実施しています。6月5日現在、53校が実施済みです。また、6月11日にも数校が実施します。また、義務教育学校1校で運動会を実施し、組体操も実施しました。

予定も含まれますが、このうち難度が高いとされた3段タワー実施校数が40校、4段ピラミッド実施校数が29校です。

春に運動会を開催する学校のうち、組体操を実施しない学校は2校です。そのうち1校は昨年度も実施していません。もう1校は、組体操を取りやめてダンスを中心としたマ스ゲームに切りかえています。

6月3日現在の各校からの事故報告書によるけがの状況です。全て練習中のけがであり、運動会当日のけがはありません。事故報告件数は32件で、うち小学校30件、中学校2件です。これは医療機関にかかった件数です。内訳は骨折13件で、うち小学校が11件、中学校が2件でした。さらに骨折の内訳は、倒立3件、ピラミッド、サボテン、電柱各2件、肩車、飛行機、3人タワー、2人技が各1件です。

なお、過去の事故件数と骨折件数を記載しています。

組体操の実施に向けては、まず各校で市教委が出したガイドラインを全職員で確認していただきました。運動会の種目や、あるいは組体操の実施について、各校で時間をかけて審議・協議された模様です。実施校からは、計画書を事務局に提出することになっており、気になるところには、事務局から学校へ連絡し、指導しています。

校内での組体操の研修、区内での組体操の研修、そして全市の研修と合わせて計3回研修したところも多くありました。

安全な体育的活動に向けた研修会は春実施の小学校向けに、5月2日に湊小学校で行いました。130名の先生方の参加を得ました。

運動会に視察に行った指導主事の報告書によると、研修会実施後、各校で安全面に配慮し、工夫した組体操を実施しているということでした。今までは大人数でやっていたものも、少人数の技を組み合わせて隊形を変えて披露した。あるいは、組体操だけに特化せず、表現領域、例えば行進やダンス、ラグビーのハカであったり、人文字を取り入れて、表現領域と組体操を組み合わせたような演技をしていた。あるいはピラミッドについては、6人で構成する3段ピラミッドや、10人で構成する4段ピラミッドのほかに、10人以上の構成で4段の円形や横長のピラミッドを工夫して実施した。3段タワーでは、当初の予定どおり先生方の補助が4人、どの方向でも落下に対しては補助できるようにして実施した。倒立ができない児童、あるいは苦手な児童については、従来どおり児童の後ろに立って補助するのではなく、児童の横に立って補助するように、補助の仕方が少し変わってきたという報告を受けています。

今後は、春の運動会実施の中でのけがの様子、あるいは何がどのように起きたかということ細かく検証して、秋実施の学校に反映したいと考えています。また、秋実施の学校に向けての研修会を、小学校は6月27日、中学校は6月30日に実施予定です。

(雪村教育長)

運動会の組体操の状況について、いかがでしょうか。

(伊東委員)



当日のけがはなかったという報告ですけれども、骨折した児童生徒がいる学校の計画書はどうなっているのか、また校長先生はこれに対してどう思っているかといったコメント等はないでしょうか。

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

計画書とけがの原因と、けがをしないための防止策は出しています。

(伊東委員)

今後の研修等に反映するのであれば、そのあたりを明確にしていたほうが良いと思います。倒立で骨折が3件というのは、どうやって骨折をしたのか。手首なのか、それとも違うところなのかといったところも。

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

足の指です。着地のときに、普通は片足ずつトントンとつくところが、両足をドンとついたために衝撃を受けて、足の親指のつけ根であるとか、足の指の先が骨折したというのがほとんどです。

(梶木委員)

そういうのは防げますか。片足ずつトントンといけば大丈夫ですか。

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

片足ずつトントンといけば大丈夫です。衝撃を防ぐためのおり方の指導を徹底する、または本当に苦手な子に関しては、最後までおろしてあげる等の指導が考えられます。また、長い時間支持してられないという場合があり、ゆっくりおろしている間に、今度は支えている手が崩れてしまうということもあるので、やはり複数人で補助する必要があると思っています。

(大塚委員)

そうすると、「昔」というのがはっきりしているわけじゃないですけれども、イメージとして、昔の倒立等で骨折しているのと、最近の骨折とはかなり様子が違うということでしょうか。

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

そうですね。幼少期の体験が少ないので、例えば逆さ感覚であるとか、体幹を中心とする強さであるとか、それも明らかに違うと思います。それは生活様式等によって変わってくるのでしょうかけれども、当初の計画では、どの学校も予定としてそこに着目して、早い

うちからそういうトレーニングを入れるようにしていただきたいと思いますけれども、それについては、これから検証してみます。

(大塚委員)

釈迦に説法になるのは承知の上ですけれども、そうだとすると、昔とは違って組体操だけじゃない体育全般の安全配慮について、昔とは違うようなトレーニングというか、そういう教育をやっているかきやいけないのかなという気もします。その意味では、さっき伊東先生がおっしゃった、どうすることで防げたのか、あるいは防げなかったのか、そういう分析をやることで事故を減らすことができる。だからいつも言いますが、安全配慮、安全確保の問題ですから、これは組体操はもちろんだけど、組体操だけの問題じゃないわけですよね。そのあたりの一つの材料として、この事故内容の検証をやっていただく必要があるという感じがしますがいかがでしょうか。

(伊東委員)

ぜひ検証はやっていただきたいと思います。おりて骨折するのであればおり方の問題もあろうかと思えます。痛いのは子供たちですし、組体操をやる学校数はふえると思えますので、秋には同じようなけがの件数が、限りなく減ることが重要だと思います。

(福田委員)

平成28年度のデータは、59校が運動会を実施した結果のデータですよ。過去の26年、27年の比較データの母数は、同じぐらいの校数ですか。

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

実際に春に実施した校数は同じぐらいですが、27年度と26年度は1年間を通しての数字で春実施だけの統計をとっていませんので、直接比べることはできません。

(福田委員)

もし、26年、27年も59校あるいは60校ぐらいでこれだけ事件、事故が起こっていたら、大変なことだったなと思えました。これは年間だから、この倍ぐらいの率で考えた方がいいですね。

(岡田スポーツ担当局長)

そこは難しいところですが、それほど学校数は変わっていませんので、163校中59校で今現在これだけの件数があります。単純に、小学校163校全て、秋まで終わると仮定すると、単純に59校で163校を割った2.7倍ぐらいを掛けたいということになります。

(福田委員)

さっき伊東先生も言われていましたけれども、これだけいろいろ指導して、教員の先生も一生懸命見て、一生懸命訓練等々をやっけてここまで抑えることはできたけれども、なおこれだけ事故があるということは、本質的な問題はまだ残っていると解釈できるわけです。だから、これからの削減のための施策は、また違う切り口でやらないと、これ以上はけがの件数が減らないと解釈していいのかと聞きたかったんです。

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

先ほど指摘があったように、組体操に限らず、体育全般から見ても、現場で小さいけがは起こっているのではないかと考えています。それを防ぐために、今後もう少し広い視野で考えていかなければならないと思います。

(福田委員)

わかりました。

(梶木委員)

骨折以外で病院に行くのはどういう症状でしょうか。

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

大体、打撲、捻挫、すり傷の3種類です。

その場では、骨折なのか、捻挫なのか、打撲なのか、靭帯がどうにかなっているのか等はわからないものですから、とりあえず医療機関にかかって、レントゲン等診断を受けて判断するというふうに対応しています。

(伊東委員)

実際、先生の動きはよかったですよ。全てのところに補助でついていただいて、むしろ先生が疲れているような感じでした。

少し気になったのは、天候等の運営上の判断ですね。雨が降ったりやんだりする中で、校長先生はテントの中におられますが、どう判断するのかなと思って見ていましたけれども、その場合の指揮官は校長先生になられると思います。ですので、さっきの話に戻りますけれども、校長先生はこの骨折に対してどう思われるかというのは確認してもらいたい。あれだけ現場の先生が大変な思いをして、昼休みも削って練習練習で頑張っていて、子供たちも先生たちもくたくたの状況で完成したものを、校長先生はどう受け取るかと思った次第です。どうしても雨で行事が流れるのは、学校行事的にもしんどいでしょうし、今週も土曜は雨が降る予報になっているので、校長先生には一層、今までと違う判断が求められる

と思います。

先生方は本当によかったと思います。

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

当日は雨が降って中断するような状況がありましたけれども、最後には組体操に危険はないという校長先生の決断だったと思います。

(雪村教育長)

それでは、この件についてよろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

次に教第12号議案、平成28年度神戸市一般会計補正予算（教育委員会所管分）に関する意見決定の件について、お願いします。

### **教第12号議案** 平成28年度神戸市一般会計補正予算（教育委員会所管分）に関する意見決定の件

(豊永総務課長)

中学校給食調理等業務について債務負担行為の補正をするものです。平成28年度予算については、当初予算でとっていますが、複数年契約をする際の予算の裏づけとして、平成32年度まで限度額38億2,800万円で債務負担をとるものです。これについては、調理単価は250円、配送配膳費2万5,000円——今回公募した最高価格で喫食率が70%という公募条件を前提として計算したものです。

以上です。審議をお願いします。

(雪村教育長)

補正予算の上程について、いかがでしょうか。

(森本委員)

もう少し詳しいところを確認させてください。1食250円で、70%の喫食率ですね。あともう一点、2万5,000円というのは何でしたか。

(豊永総務課長)

配送配膳費が2万5,000円です。1校に対して配送する費用が1回あたり上限2万5,000

円という前提です。

(森本委員)

年間を通じた分を掛け算すると、これだけのお金になるということですか。

(大塚委員)

支給費には原材料費は入ってないですね。

(豊永総務課長)

はい、入っていません。

(雪村教育長)

配送1回というのは、回収も含めて、つまり往復分ですね。

(豊永総務課長)

そうです。

(梶木委員)

喫食率70%というのは、どこから出てくるのですか。

(豊永総務課長)

予算としては、公募の前提である喫食率70%から機械的にとらせていただいています。ただ前回審議いただいたように、喫食率がそれより上に振れたときの事業者間の相互補完、相互協力の中での補助体制については、また内部でも検討していくところです。

(森本委員)

例えば喫食率がふえていったら、何が関係しますか。2万5,000円は変わらないですか。

(豊永総務課長)

2万5,000円は変わりません。ですから、250円に対して食数がふえていくことになりません。

(大塚委員)

その場合は不足が出てくるから、そこでまた単年度で補正等をして対応することになるんですね。

(豊永総務課長)

そうです。

(梶木委員)

今の話のように、喫食率がふえていくほうがいいんですけども、減ってきたらどうなりますか。現状だと、結構喫食率が低くなっていますよね。大丈夫ですか。

(豊永総務課長)

現状では、70%まではいっていませんが、今回配送配膳費を別にしたことで、事業者にとっては一定のリスク軽減になるということで公募条件を決定しています。

(大塚委員)

従前は配送費がなかったんですか。

(豊永総務課長)

なかったです。単純に単価と食数で計算しています。

(雪村教育長)

そのほか、よろしいですか。

そうしましたら、市長から教育委員会に対して補正予算を上程するに当たり、教育委員会の意見を聴取すべきとなっていますが、上程については異議なしという形で決定してよろしいですか。

(6名の賛成により、可決)

(雪村教育長)

ありがとうございます。

続いて、報告事項5、平成29年度国家予算に対する提案・要望（教育委員会関係分）について、お願いします。

## **報告事項5** 「平成29年度国家予算に対する提案・要望（教育委員会関係分）」について

(豊永総務課長)

29年度の国家予算要望です。例年どおりの要望の項目が多くなっていますが、新規の項目について説明させていただきます。

1 ページは「大規模国際スポーツイベント開催等の推進」で、例年どおりの要望となっています。

2 ページが「教育環境の充実」というところで、ここで幾つか新規項目を要望しています。(2) 安定的な学校運営体制の確保というところで、主幹教諭のマネジメント機能強化にかかる加配教員の増員、それから管理職の処遇改善、この2項目についてこのたび新たに国に要望する項目として掲げています。

これについては27年度に県の要望にも盛り込んで緊急要望した項目になっていますので、今回国にも要望するというので、新規に追加しています。

それから(3) 特別支援教育の推進の1つ目の○、医療的ケアができる看護師の人材確保・育成及び小中学校への看護師の配置に係る補助制度の拡充ということで、これも新規項目になっています。今年度より小中学校で医療的ケアが必要な児童生徒に対して、それぞれ週1回看護師を派遣するという事業を始めています。まだまだ国の予算が不足しているため、このたび新たに国家予算要望に盛り込んでいます。

それから(4) 学校施設整備事業の推進の下のほう、義務教育学校における小中一体型校舎の整備のための負担金・交付金制度の拡充ということです。これについては港島学園を小中一体型に整備をしますが、国の補助制度がないということです。新たに負担金・交付金制度を拡充して補助対象にさせていただきたいという要望を出しています。

3 ページ、「県費負担教職員制度の見直し」については、昨年度と同様の内容です。それから4ページのその他の要望の(1) 問題行動等、それから(2) 学校施設・設備の環境改善についても、例年の項目となっています。

以上、国家予算要望の報告です。

(雪村教育長)

国家予算要望について、いかがでしょうか。

(森本委員)

最初に報告された「主幹教諭のマネジメント機能強化にかかわる」、ここまではわかりますけれども、それと「加配」とはどうつながりますか。「主幹教諭が新たな活躍ができるようにしましょう」、そのために加配をつけてほしいということですか。

(豊永総務課長)

そうです。教員を加配することで、主幹教諭が本来のマネジメント機能を発揮できるようにするというので、裏に加配をするという要求になっています。

(森本委員)

主幹教諭をふやすために加配を入れてほしいということですか、そうではないですか。

(豊永総務課長)

主幹教諭がもう少し本当に校長、教頭の補佐をするような大きな業務ができるように、負担軽減をするための加配をつけるということです。

(森本委員)

ということは、定数の中に主幹教諭を数えないということですか。主幹教諭がマネジメントの仕事をするから、その後に人をつけてほしいということですか。

(豊永総務課長)

そういうことです。

(森本委員)

この文章だけではわかりにくかったので確認しました。

(雪村教育長)

ただ、ある学校に主幹教諭が5人いたとしたも、「5人の加配を」という要求ではないわけですね。例えば、主幹教諭が授業を持っていたら、主幹教諭として動く時間の裏の授業に入るといったことで、必ずしも1対1の関係ではないですね。

(豊永総務課長)

そうです。現在、小学校に146人の主幹教諭がいて、現状で加配がいるのが35人です。

(森本委員)

もう35人加配の方がいるんですか。

(豊永総務課長)

例えば中学校では80人の主幹教諭に対して33人の加配が要るということですので、まだまだ不足しているので、さらに拡充をお願いしたいということです。

(森本委員)

今の加配は、国のお金でつけたんですね。それをふやしましょうということですか。

(豊永総務課長)

そうです。



(雪村教育長)

それぞれの項目について、何か質問等ありませんか。  
ないようですので、国家予算要望の報告、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

それでは、教育委員会会議を閉会させていただきます。

**閉会 : 午後 2 時 53 分**